

5月の窓

英語のことわざに、**March winds and April showers bring forth May flowers.** というものがあります。日本語にすれば「3月の風と4月の雨(showers)があるから、5月にきれいな花が咲く。」という意味でしょうか。そう言えば日本でも、4月の桜が散った後の5月には、チューリップをはじめいろんな花が咲き始めます。本校玄関脇の花壇の花も、きれいに咲きそろいました。いつも世話をしている先生に聞いたところ、4月下旬に咲き始めたそうです。



和風庭園では、ソメイヨシノが散った後に、白い花を咲かせた木があり、長く勤めておられる先生に聞いたところ、「アメリカハナミズキ」と教えていただきました。明治45（1912）年、当時の東京市がアメリカのワシントンに桜を贈ったお礼に、ワシントンから東京にアメリカハナミズキが贈られたのだそうです。同じ和風庭園に赤とピンクの花を咲かせた低い木もあり、この先生によると「ボケ（木瓜）」の木だそうです。なぜ「ボケ」という名前になったのかはいくつかの説があるそうですが、そのうちの一つは、果実が瓜に似ており、木になる瓜ということで「木瓜（もけ）」と呼ばれ、それが「ぼけ」になったというものです。左の写真がアメリカハナミズキ、右がボケです。



新しい年度の最初の月は、何かと緊張するものですが、特に新入生にとっては緊張の連続だったものと思います。しかし、蔵王での入門合宿や応援歌練習などを経験して、すこしずつ高校の生活にも慣れてきたようです。4月19日（土）には、山形南高校との野球の定期戦があり、1年生も初めて応援に行ってきました。毎年、霞城公園の中にある山形市野球場で開催していますが、今年は満開の桜の中での応援となりました。試合は3対5で残念ながら逆転負けとなりましたが、多くの生徒が応援にかけつけ、野球部の生徒もいい試合をしてくれました。

同じ霞城公園内にある県立博物館では、「教育資料館 新コレクション展」が開催されていました。教育資料館は、「旧山形師範学校本館」の保存と活用を目的に設立された教育資料専門の博物館で、山形北高校の隣にあります。山形県立博物館の分館として、多くの教育資料を収蔵していますが、常時展示できるものは限られています。今回は、これまであまり公開されなかったものを中心に、県立博物館本館で展示しているので、私も行ってまいりました。私は2年前県立博物館に勤務していましたので、教育資料館に展示してあるものはすべて何回も見ておりますが、今回の資料は、ほとんどが初めて見るものでした。

最初の写真は福沢諭吉関係の出版資料で、有名な「学問のススメ」です。次の写真は、学校給食で使われたミルク缶とアルミ製カップです。昭和期に山形市立西山形小学校で使用したものと説明がありました。私が小学生だった頃、このような容器を使用した覚えがあります。



次に紹介するのは学校文集です。教育資料館では、県内小中学校で戦前から現代まで発行された約4000点の学校文集や学級通信を収蔵していますが、今回は戦後に発行されたものを紹介しています。最初の写真は昭和20年代のもので、山形市立第一小学校、第六小学校、第八小学校などの学校名が見えます。次の写真は昭和50年代のもので、天童市立蔵増小学校や山形市立鈴川小学校のものなどがあり

ます。



次の展示資料は、戦前につくられた学校関係の絵葉書です。以前、何か記念の年に学校が絵葉書を作っていたことは知っていましたが、今回、高等学校に関する絵葉書を初めて見ることになりました。その中には、山形東高校に関するものもありました。次の写真がそれで、山形中学校創立50周年記念絵葉書と説明があります。昭和9（1934）年の発行なので、今から80年前になります。7枚1セットになっていました。次の写真はそのうちの1枚で、創立50周年当時の長岡恒喜校長先生と、山形中学の校旗が写っています。本校の同窓会で、この絵葉書のことを知っているか気になり、事務局の方に聞いたところ、同窓会としてこの絵葉書セットを3部持っているとのことでした。



最後に、先月から、山形東高校の近隣にある名所・旧跡・観光スポットなどを紹介しておりますが、今回は遊学館を紹介します。遊学館は、先月紹介した三島神社のすぐ西隣にあり、本校からも歩いてすぐのところにあります。「遊学館」は、「山形県生涯学習センター」と「山形県立図書館」と「山形県男女共同参画センター」の三者が入る複合施設で、平成2年7月に完成しました。当時、私は山形東高校に勤務していたので、クラスの生徒を連れて見学に行ったのを覚えています。ほとん

どの生徒はすでに行ったことがあったようですが、3階の特別会議室に案内してもらった時は、当時山形で唯一の同時通訳のできる設備があるということで、生徒も感激したものでした。最初の写真は、正面から撮影したもの、次の写真は玄関を入るとすぐ目に入ってくる大きなからくり時計です。遊学館のホームページの説明によると、毎時音楽が流れ子どもの人形が飛び出すことから、遊学館のシンボルになっているそうです。時計の中に入っている子どもたちをよく見てみると、昔の遊びを再現しており、写真では小さくてわかりにくいですが、縄跳び、まりつき、セミ取りなどを行っていることがわかりました。



4月下旬から5月中旬にかけて、こどもの読書週間企画展「大空へ！とびたて飛行機」が開催されています。子ども向けから大人向けまで様々な本が展示されており、次の写真のようにつくって遊べる「紙ヒコーキ」のコーナーもあります。また、今年は山形空港開港から50周年にあたるので、それに関する展示もありました。なお、この企画展は5月17日までとなっております。

